第346回　企業会計基準委員会議事
平成28年10月6日（木）

議事要旨(2) 2016年9月開催会計基準アドバイザリー・フォーラム（ASAF）の報告

川西常勤委員より、2016年7月開催会計基準アドバイザリー・フォーラム（ASAF）の状況について報告がなされた。

報告に対する委員からの主なコメントと、それらに対する事務局からの回答は次のとおりである。

概念フレームワーク

- ある委員より、次の質問があった。
  - OCIに関する調査を学術研究者と連携しシンポジウムの開催を予定している旨のフランスのコメントに対し、Hoogervorst議長が学術研究の使用に慎重となるよう言及しているが、この発言の背景は何か。

  これに対して、事務局より、次の回答がなされた。
  - 学術研究者の中にはIFRSが全面時価会計を志向している者がいるという懸念をHoogervorst議長が抱いていることでの発言だと思われ、フランスが行う調査やシンポジウムについて批判することを意図した発言ではないと考えられる。

- ある委員より、次のコメントがあった。
  - OCIの使用に関する明確化や純利益のall-inclusiveの主張を続けていくことを前提に、測定基礎の選択の考え方に関してEFRAGの主張に歩み寄って協調することが現実的であると考えるが、どうか。

  これに対して、事務局より、次の回答がなされた。
  - EFRAGと協調したいと考える一方で、EFRAGはOCIの使用に対し消極的な立場であり、また過去の会計基準設定の経緯を見ても財政状態の観点が重視されていると思われることから、協調の前に前提となっている考え方を理解することが必要となると考えられる。

- ある委員より、次の質問があった。
  - ASBJの立場としては、財政状態の観点と財務業績の観点からそれぞれの目的に適合する観点を選択したうえでOCIを二者間の連結環とし、純利益はフルリサイクリングする考え方を堅持しているという理解でよいか。

  これに対して、事務局より、次の回答がなされた。
  - その理解のとおりである。

- ある委員より、次の質問があった。

財務会計基準機構のWebサイトに掲載した情報は、著作権法及び国際著作権条約をはじめ、その他の無体財産権に関する法律並びに条約によって保護されています。許可なく複写・転載等を行うことはこれらの法律により禁じられています。

- EFRAGの主張にある、財政状態の観点と財務業績の観点から測定基礎の選択を行い、相違がある場合にはいずれかに「妥協」するいう点に対し、フランスが受託責任の観点から目的適合性のある情報の提供を考慮すべきと言及しているが、受託責任の観点というのは財務業績の観点を重視することを指した発言か。

これに対して、事務局より、次の回答がなされた。

- フランスのコメントはEFRAGの測定基礎の選択の考え方を支持する際の前提と考えられる。

- ある委員より、次のコメントがあった。
  - Hoogervorst 議長、IASBスタッフのコメントや、OCIのリサイクリングの可否の議論においても、それぞれが想定する「純損益の目的」を念頭においた内容であり、その一方で純損益を定義しないということは矛盾した行為だと考える。

以　上

財務会計基準機構のWebサイトに掲載した情報は、著作権法及び国際著作権条約をはじめ、その他の無体財産権に関する法律並びに条約によって保護されています。許可なく複写・転載等を行うことはこれらの法律により禁じられています。